上市町立宮川小学校学校だより

宮　川　っ　子

令和４年１月号

本校卒業生　大庭　典章　様より寄贈
「双　鶴」　　上村　淳之　作
※校長室に展示

保護者・ご家族、地域の皆様、新年あけましておめでとうございます。

令和4年、西暦 2022 年、そして壬寅（みずえのとら）の年が始まりました。

令和に入って以来、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、マスク着用、手洗い、三密を避けるといったことが当たり前となり、行動が様々な面で制限される、新しい生活様式下での日々が続いています。このような状況がいつまで続くのか、先が見えない日々が続いていますが、この逞しい寅の年にこそ終息をと願うばかりです。

１月・睦月。学校では、いよいよ3学期が始まります。例年よりも少し遅めの始業式、１１日（火）には元気な宮川っ子が校舎に戻ってきました。一年間のまとめ、また進学・進級に向けたステップアップの学期となるこの3学期。一人一人の子供が、毎日元気に、そして心身ともに健やかに成長できるよう、改めて努めてまいりたいと思います。

保護者・ご家族、そして地域の皆様の益々ご健勝をお祈り申し上げますとともに、本校教育活動、そして児童一人一人への変わらぬご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

校内書初大会

新年最初の学習活動は、校内書初大会です。一、二年生は硬筆で、三～六年生は毛筆での書初です。

二学期中や冬休み中に練習した成果を発揮しようと、一人一人が集中して書初に臨みました。

特に三～六年生は、十二月に地域の稲垣宗之先生から教わったことを、実践しようと、一つ一つの文字に真剣に向き合う姿が見られました。

【三年　「思いやり」】

【六年・けやき級　「心に太陽」】

【二年　「竹うま」】

【五年　「初日の海」】

【一年　「かるた」】

【四年　「光る立山」】

【のぞみ級】

令和時代の小学校　part. 7

12 月 4 年 プレイルーム
稲垣先生との書初教室

毛筆での書初。かつては、だるま筆を準備し、「東京判」と呼ばれる縦が1メートルを超える長さの用紙で行うことが多かったのですが、現在、富山県内ではほとんどの市町村で「八つ切り判」や「東京小判」と呼ばれる縦が 68cm程の、二回りほど小さくなった用紙で行っています。これは、普段使いの筆を使って机上で書くことができるように、という配慮からの変化だったのですが、やはり、大きな紙に書く時は床に広げてという学校が多いようです。本校でも子供たちがのびのびと書くことができるよう、子供たちが教室等の床いっぱいに広がって、文字一つ一つの書写に一生懸命に取組んでいます